

仮置場候補地の選定

仮置場は、生活環境の確保・復旧等のため、災害廃棄物を一時的に集積し、分別・保管しておく場所であり、道路啓開や倒壊建築物の撤去のためにも必要となる。

1. 仮置場の種類

仮置場の種類と特徴は表 1 のとおりである。「一次」「二次」などの名称や区分は、被災自治体によって違う場合がある。また、災害の規模や地域特性、仮置場として使用できる土地の面積等により、住民用仮置場と一次仮置場を同じ場所に設置する場合や、二次仮置場を設置しない場合がある。

表 1 仮置場の種類と特徴

	特 徴
住民用仮置場 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した住民が片付けごみ（壊れた家具や家電等）を搬入する場所 ・発災後すぐに被災地区に近い公有地等に設置する場合があり、設置期間も数週間程度までと短期間とする場合が多い。
一次仮置場	<ul style="list-style-type: none"> ・災害廃棄物を、被災市町村内において、一時的に集積する場所 ・処理前に、仮置場にある災害廃棄物を一定期間、分別・保管しておく場所（簡易な破碎を行う場合もある）
二次仮置場	<ul style="list-style-type: none"> ・一次仮置場での分別や作業スペースが不十分な場合に、再分別・保管しておく場所 ・仮設の破碎・焼却施設等の設置及び処理作業等を行うための場所 ・大規模で設置数は少なく、長期間運営される場合が多い。

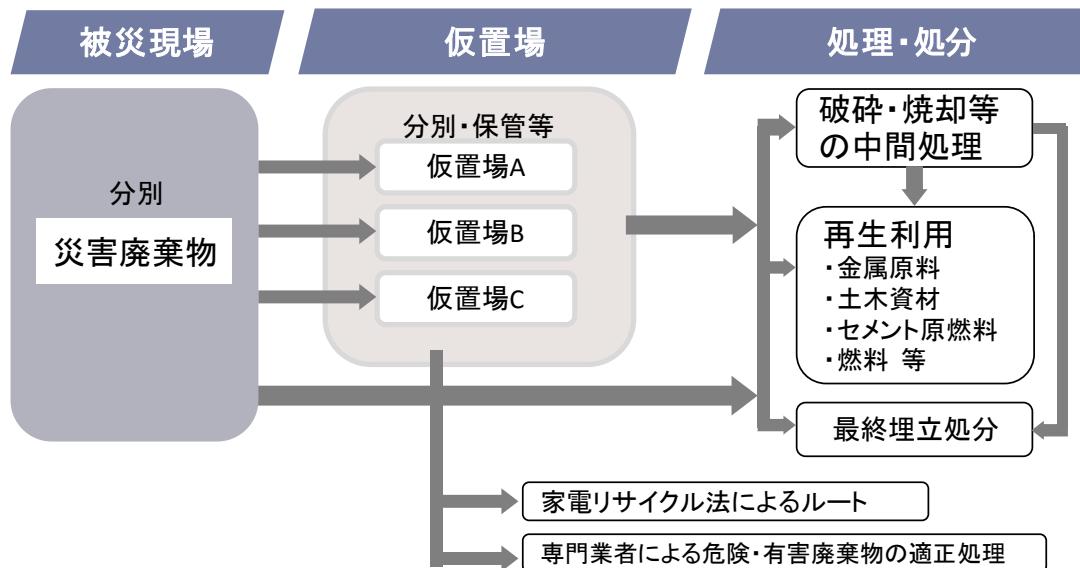


図 1 災害廃棄物処理の流れ

(1) 住民用仮置場（集積所）

【熊本市】市内ごみステーション



【北海道厚真町】（新町パークゴルフ場）



場内配置図

(2) 一次仮置場

【福岡県朝倉市】



【北海道日高町】



(3) 二次仮置場

【熊本県】重機による破碎・選別



【熊本県】仮設処理施設（破碎・選別）



出典：熊本県資料

2. 仮置場候補地の選定

災害時に迅速に仮置場を開設するためには、平常時に候補地を選定しておく必要がある。

(1) 候補地選定のポイント

- ①公園、グラウンド、公民館、廃棄物処理施設、港湾等の公有地
(市有地、県有地、国有地等)
- ②未利用工場跡地等で長期間利用が見込まれない民有地
- ③二次災害や環境、地域の基幹産業への影響が小さい地域
- ④応急仮設住宅など他の土地利用のニーズ有無
※空地等は災害時に自衛隊の野営場や避難所・応急仮設住宅等に優先的に利用される
ことが多くなることを考慮する必要がある。

出典：災害廃棄物対策指針技術資料 1-14-5

仮置場候補地の選定の際に考慮する点

仮置場候補地は、以下の点を考慮して選定する。

＜選定を避けるべき場所＞

- ・学校等の避難場所として指定されている施設及びその周辺はできるだけ避ける。
- ・周辺住民、環境、地域の基幹産業への影響が大きい地域は避ける。
- ・土壤汚染の恐れがあるため、農地はできるだけ避ける。
- ・水害による災害廃棄物は、汚水を発生する恐れがあることから水源に留意し、近接する場所を避ける。
- ・浸水想定区域等を避ける。（市町村が策定したハザードマップを参照すること）
- ・二次仮置場は、長期間に渡り、大量の災害廃棄物を仮設処理施設により破碎選別、焼却処理を行う場合があるため、周辺環境へ影響を考慮して選定する。

＜候補地の絞込み＞

- ・重機等により災害廃棄物を分別・保管するため、できる限り広い面積を確保する。
- ・公園、グラウンド、公民館、廃棄物処理施設等の公有地。
- ・未利用工場跡地等で長期間利用が見込まれない民有地（借り上げ）。
- ・候補地に対する自衛隊の野営場や避難所・応急仮設住宅等、他の土地利用のニーズの有無を確認する。
- ・効率的な搬出入ルート、必要な道路幅員が確保できる。
- ・敷地の搬入・通行路は、大型車が走行できるようコンクリートまたはアスファルト敷がほしい。
- ・長期間使用できることがほしい。
- ・必要な消火用水、仮設処理施設の電源・水源が確保できることがほしい。
- ・ごみ処理施設の周辺を候補地とする場合は、道路渋滞が発生し、廃棄物の搬入出に支障がないか確認する。

出典：市町村向け災害廃棄物処理行政事務の手引き 環境省東北地方環境事務所

(2) 必要面積の推計

仮置場の必要面積は、災害廃棄物発生量（想定する災害から発生すると推計した量）を基に計算する。必要な面積、不足する面積を把握する。

必要面積の推計方法

$$\text{面積} = \text{集積量} \div \text{見かけ比重} \div \text{積み上げ高さ} \times (1 + \text{作業スペース割合})$$

$$\text{集積量} = \text{災害廃棄物発生量} - \text{処理量}$$

$$\text{処理量} = \text{災害廃棄物発生量} \div \text{処理期間}$$

見かけ比重：可燃物 0.4 (t/m³)、不燃物 1.1 (t/m³)

積み上げ高さ：5m以下が望ましい。

作業スペース割合：0.8~1

出典：災害廃棄物対策指針技術資料 1-14-4

(3) 課題・検討内容等

仮置場候補地の選定では、次の課題等があると考えられる。

①候補地を選定する際に優先すること

- ・何を優先して選ぶべきか？選ぶときに何がボトルネックとなるのか？

②廃棄物部署だけで候補地を決められない場合

- ・公園を管轄している部署や防災等の部署と調整する必要がある。府内合意の方法は？

③適当な市町村有地がない、あっても面積が足りない場合

- ・県や国、民間等へのアプローチの仕方は？

④近隣住民への配慮から候補地を公表できない場合

- ・仮置場候補地は、地域防災計画や災害廃棄物処理計画に明記することが望ましいが、廃棄物が近隣に置かれることに抵抗のある住民もいると思われ、近隣住民への配慮から候補地を公表していない市町村も多い。近隣住民へのアプローチの仕方は？

(他の課題・検討事項等)